

平成29年度事業計画

I 基本方針

財団の「理念と使命」に基づき、芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、保存活用等の事業を実施することにより、東日本大震災からの県民の教育、学術及び文化の「復興」を目指す。

II 公益目的事業

公1 芸術文化に関する主催公演の開催、文化施設の貸与、歴史資料の収蔵・展示等を通じた文化振興事業

1 芸術文化振興事業

福島県の復興を担う子どもたちの健全な育成に資することを目的とする「ふくしま文化復興事業」の内容充実に努めるとともに、県民が幅広く優れた芸術文化に触れる機会を提供することを目的に次の事業を実施する。

(1) ふくしま文化復興事業

(ア) キッズシアター

子どもの感情や情緒を育み、創造的で、個性的な心の働きを豊かにすることを目的とし、教育開催地教育委員会等との共催により、児童・生徒を対象に県内巡回演劇公演を実施する。

開催日：6月上旬～下旬 会場：県内6市3町

演目：オペラ「森は生きている」 出演・制作：オペラシアターこんにゃく座

(イ) 子どもの芸術文化体験事業

福島県の復興を担う子どもたちの健全な育成を目的とし、演劇や音楽などの優れた芸術文化に生で触れる機会を提供する。

実施時期：7月中旬～平成30年2月中旬（予定）

(ウ) 歴史再発見事業

東日本大震災からの文化復興の担い手となる人材の育成を目的とし、夏休み期間中に、親子（小学生とその保護者）で史跡や文化財等を見学するバスツアー等を行い、被災地の歴史や文化を見つめ直す機会を提供する。

開催日：8月上旬 会場：県内市町村

(エ) 復興共催事業

文化芸術の振興による福島の復興を目的に、著名アーティストの公演等を、地元の報道機関、文化団体との共催等により10件程度実施する。

a coba tour 2017 25周年記念

開催日：8月27日（日） 主催：株式会社ニュースプロモーション

- b フォレスタ・コンサート
開催日：11月15日（水） 主 催：株式会社ノースロード・ミュージック
- c めざましクラシックス
開催日：2月24日（土） 主 催：福島テレビ株式会社

（2） 舞台芸術等鑑賞事業

（ア） 古典劇場

a 狂言公演

日本古来の伝統芸能の継承・普及を目的として、古来より民衆の生活に生き、育まれてきた日本伝統芸能の中でも人気の高い狂言公演を実施する。また、公演に先がけ狂言セミナーを実施する。

・公演開催日：11月2日（木） 会 場：大ホール

・セミナー開催日：10月中旬～下旬（予定） 会 場：小ホール

制作：アオイスタジオ株式会社

（イ） 映画鑑賞事業

a 子ども映画会

子どもの健全な育成を目的として、学校の夏休み期間に、子ども向けのアニメーション作品等の映画を上映する。

実施時期：夏休み期間中3日間程度

開催日：7月下旬～8月中旬（予定） 会 場：小ホール

b 名作シネマ

優れた映画の鑑賞機会を提供し、映画鑑賞人口の増加と、映像文化の振興を図ることを目的として、文化庁優秀映画鑑賞推進事業を利用し、歴史に残る名画を上映し優秀映画を鑑賞する機会を提供する。

開催日：平成30年1月下旬～2月（予定） 会 場：小ホール

（ウ） 文化センター感謝祭

文化センターの改修工事に伴う長期休館により、ご不便をお掛けした事に対するお詫びと日頃の感謝の意を込めて、福島にゆかりのあるアーティスト等による大人から子どもまで楽しめる3公演及び式典を開催する。

a 感謝祭コンサート

開催日：10月9日（月・祝） 会 場：大ホール

b 感謝祭子どもまつり

開催日：10月14日（土） 会 場：2階会議室 （2回公演）

c 感謝祭プレイベント

感謝祭プレイベントとして、福島市にサテライト校を置き、全国大会出場（29年8月開催）を果たした相馬農業高校飯舘校演劇部の壮行会公演を開催する。

開催日：6月10日（土） 会 場：小ホール

(3) 共催事業

(ア) 第71回福島県総合美術展覧会

開催日：6月16日(金)～25日(日) 主催：福島県他

(イ) ファミリーシアター

開催日：10月(予定)

主催：公益社団法人日本児童青少年演劇協会・開催地教育委員会

(4) 後援事業

(ア) 後援事業

本県の文化活性化のため、関係機関、文化団体・報道機関等からの申請により後援する。

2 福島県文化センター関係事業

福島県文化センターの指定管理者として、福島県との基本協定、年度協定に基づき施設の管理運営の業務を行う。

(1) 福島県文化センター受託施設

施設名	敷地面積	延面積	建築面積
福島県文化会館	26,525㎡	9,826㎡	5,157㎡
福島県歴史資料館		1,612㎡	749㎡

*平成29年9月30日まで、大ホールが空調設備改修工事により休館である。

(2) 福島県文化センター年間利用者数及び利用料金収入の目標

施設名	利用者数目標	利用料金収入目標
福島県文化会館	270,000人	39,000,000円
福島県歴史資料館	10,000人	—

(3) 福島県文化会館関係事業

福島県の芸術文化の振興に寄与するため、条例に掲げられた設置目的に基づき、多くの県民が集い、日常的に芸術文化とのふれあいを持つことができる、県民本位、利用者本位の開かれた施設を目指し、その機能が十分に発揮できるよう施設の管理運営にあたる。

(ア) 施設及び設備の使用許可に関する業務

- a 施設・設備のメンテナンスを予定している期間を除き、年間の開館日数を340日以上とする。利用時間は午前8時30分から午後10時までとし、時間外についても柔軟に対応する。
- b ホールと展示室及び会議室を有する複合施設としての特徴を活かした利用促進を図り、利用者増を目指す。

(イ) 利用料金の徴収、免除の決定に関する業務

- a 平成29年度利用料金収入の目標額を39,000,000円とし、このうち公益目的事業による利用料金収入は25,000,000円を目標とする。
- b 施設利用料と設備使用料を利用後に一括して納入する「利用料金後納制」を継続して行い、利用者の利便性向上と負担軽減を図る。

(ウ) 施設の使用に関する支援業務

- a 利用者が安心して施設・設備を利用できるように、受付から利用当日まできめ細かくサポートする。
- b 円滑に利用できるように夜間・早朝利用など、利用者の要望に臨機応変に対応し、行事がスムーズに進むよう支援する。

(エ) 施設及び設備の維持管理

- a 施設・設備の日常点検を励行し事故防止に努める。
- b 施設・設備の安全性や使い勝手を向上させるための改修を検討し、必要に応じて設置者に提案する。

- (オ) アートマネジメントに関する業務
- a 文化イベントの企画立案から運営まで利用者の要望に応じて支援する。
 - b 県内の公立文化施設の取りまとめ館として施設運営や文化事業に関する連携、情報提供を行う。
 - c 文化会館の壁面等のスペースを活用して作品発表の場を提供する。
- (カ) 文化情報の発信
- a ホームページによる情報発信
イベント情報の案内として、文化センターで開催される催事を紹介する「催し物案内」と財団の「主催事業」、報道機関や文化団体等との「共催事業」に分けて分かりやすく掲載する。
 - b メールマガジンの発行
メールマガジンでは、文化センターの催し物案内のほか、県内のイベント情報の配信サービスを無料で提供する。平成 29 年 2 月現在、登録者は 1,135 名である。
- (キ) 県内のイベント情報の提供
- ホームページに県内の文化施設や文化団体、行事の主催者から提供があった文化イベント情報を掲載する。情報は、音楽、演劇・舞台、展示、自主上映、講演・講座、その他のジャンルに分けて掲載し、利用者が検索しやすい構成にする。また、文化情報誌に掲載できない催事を掲載し、最新の情報提供を行う。
- (ク) 文化情報の機関紙の発行
- a 本県文化に関する県民の理解を深め、積極的な文化活動への参加を促すことを目的として文化情報誌「ふくしま文化情報」を発行する。
 - b 本県の文化活動を支援するため、様々な文化情報を掲載する。読み易い紙面づくりを心がけるとともに、より多くの方が入手できるように努める。
 - c 帰還困難区域を除き避難指示が解除されることを考慮し、発行部数を震災以前に戻し帰還している地域の文化施設等に配布する。
発行回数：年 10 回 発行部数：6,000 部
配布先：市町村、学校、文化施設、文化団体、報道機関、イベント業者、交通機関、飲食店、病院等
- (ケ) 指定管理者としての創意工夫
- a 館内にアンケートボックスを設置するほか、催事主催者にもアンケートを実施して利用者の要望を把握しサービスの向上に努める。
 - b 文化会館と歴史資料館の月間の催し物予定を文化情報誌『ふくしま文化情報』に掲載し、県内文化施設や駅、観光スポット等に配布して文化センターの催し物の広報に努める。
 - c 福島駅周辺の地下道に文化センター催し物案内を掲示する。
 - d 県内の文化施設や文化団体等から提供があった催事のリーフレットやポスター、チラシを、地域ごとに分類して来館者に提供する。

- e 古典劇場等の主催事業の開催に当って、インターネットによるチケット販売を実施して利便性向上を図る。
- f 館内に財団情報コーナーを設置し、福島県歴史資料館・遺跡調査部・福島県文化財センター白河館の事業を紹介することにより、来館者が財団に対する理解を深めるとともに、各施設の利用者増に努める。
- g インターンシップ（職業体験制度）研修生を受け入れる。
- h 芸術文化振興事業の主催事業の運営に携わるボランティアを募集し、イベントづくりの実際とその魅力を体験する。

（４） 福島県歴史資料館関係事業

指定管理者として、福島県との基本協定、年度協定に基づき、歴史資料の収蔵・展示等を通じた文化振興事業を実施する。開館日数については、歴史資料館の空調設備工事が計画されていることから、工事期間を除き文化会館に準じた日数とする。

- （ア） 県に関する文書資料、考古資料、民俗資料その他の歴史資料の収集、整理、保管及び展示に関すること
 - a 県内外諸家文書の収集等
市町村や関係機関の協力を得ながら歴史資料の所在把握を行い、必要に応じて資料を収集する。
 - b 資料整理業務
福島県の歴史に関係する行政文書・古文書等資料のクリーニング、補修、一覧作成等の整理作業を行う。平成29年度は、約3,000点の歴史資料を整理する。
 - c 展示公開業務
平成29年度 収蔵資料テーマ展を以下の予定で開催する。
 - ① 「檜枝岐村文書の世界」（仮） 4月22日（土）～ 7月30日（日）（予定）
 - ② 「只見地方の歴史と文化」（仮） 9月9日（土）～ 12月24日（日）（予定）
 - ③ 「新公開史料展」 1月20日（土）～ 3月18日（日）（予定）
 - d 歴史資料館収蔵資料の公開
 - ① 未公開となっている収蔵資料を整理し、その目録を作成し、『福島県歴史資料館収蔵資料目録』第49集として刊行する。
 - ② 収蔵資料目録デジタル化の一環として、「明治期地籍図・地籍帳・丈量帳」の小字別検索目録の作成を継続し、平成29年度も順次ホームページ上で公開する。
 - ③ 資料閲覧や写真掲載希望などへの対応業務を日常的に実施する。
- （イ） 歴史資料に関する専門的又は技術的調査研究に関すること
 - a 歴史資料の情報、収蔵資料の紹介、歴史資料の調査・研究成果等を『福島県史料情報』として年3回発行する。
 - b 展示公開等に資するため、収蔵資料の調査・研究を行う。

(ウ) 歴史資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の主催及びその開催の援助に関すること。

a 古文書講座の開催

歴史資料の利用促進を図るため、希望者を対象とした古文書講座を開催する。平成29年度は、江戸時代の文書を題材とした講座を実施する。

b 市町村史編纂に対する協力・援助

市町村史編纂に対する協力・援助を行う。

c 市町村の生涯学習・歴史講座等への協力

市町村や生涯学習団体などが実施する展示会・学習会・講習会等に講師を派遣し、その開催を支援する。

d 講演会・講習会・研究会

地域史料の保存と活用の方法や、地域史研究の視点に関する理解を促進するため地域史研究講習会を開催する。

e 映写会

歴史や民俗に関する映像を上映し、歴史に対する関心を高めるために「フィルム上映会」を年3回実施する。

(エ) 提案によるその他の事業等

a 小中学校等の学校教育への協力を行うとともに、大学生の博物館実習を公募等により募集して行う。

b 「福島県歴史資料館友の会」の活動を支援する。(平成29年2月28日現在の会員数136名)

c 災害等に伴う歴史資料の散逸を防ぐため、「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」等の活動を支援する。

d 他館と連携して以下の事業を実施する。

① 9月中旬から12月上旬にかけて福島県立博物館で予定される檜枝岐村文書に関する展示に協力する。

② 1月5日(金)から2月12日(月・祝)の会期で福島県立図書館において展示会を開き、またその関連講演会に講師を派遣する。

e 空調機の故障により、夏季の湿度調整を中心に不安定な収蔵環境となるため、除湿機やサーキュレーターで適宜補い、資料の保全と管理を行う。

公2 遺跡発掘調査及び出土文化財の劣化防止処理、文化財保護の教育普及を目的とした講演会や体験学習及び文化財の展示等の文化財保護事業

1 埋蔵文化財関係事業

福島県教育委員会からの委託を受け、埋蔵文化財の調査及び出土品の管理、整理・梱包・搬送や文化財データ入力を行う。

(1) 埋蔵文化財調査

福島県教育委員会からの委託を受け、福島県教育委員会の指示により、開発が及ぶ地域の遺跡の時代や範囲等を把握する分布調査及び開発に伴い破壊される遺跡の記録保存のための発掘調査を行う。

特に、復興に関する事業については、県外他財団からの出向による専門職員の応援を受けながら、集中的に発掘調査を実施することにより、復興に資するものとする。また、県内市町村教育委員会が実施する試掘調査・発掘調査についての技術協力を行う。

(ア) 遺跡分布調査事業

試掘調査 5事業 165,000 m²

(イ) 遺跡発掘調査事業

4事業 35,400 m²

(ウ) 発掘調査報告書の刊行

6事業 7冊

(エ) 県内市町村埋蔵文化財調査への技術協力

福島県教育委員会の指示により、県内の市町村から要請のあった埋蔵文化財調査への技術協力を行う。

(2) 文化財センター整備業務

福島県教育委員会からの委託を受け、福島県教育委員会の指示により、出土品の管理、整理・梱包・搬送や文化財データ入力を行う。

(ア) 出土品の管理

保管中の木質・金属質・動植物等遺物の劣化防止処置、保存処理を行う。

(イ) 出土品整理・梱包・搬送業務

発掘調査の出土品を福島県文化財センター白河館に収納するため、整理・梱包・搬送の業務を行う。

(ウ) 文化財データ入力業務

遺物・報告書掲載写真の情報や画像データの入力を行う。

2 福島県文化財センター白河館関係事業

福島県文化財センター白河館（まほろん）の指定管理者として、福島県教育委員会との協定に基づき、次の業務を効率的・効果的に実施する。

(1) 施設管理業務

(ア) 受託施設

敷地面積	51,794.00 m ²
本館棟	2,337.73 m ²
収蔵庫棟	3,052.86 m ²
体験学習館	89.43 m ²
野外展示施設	縄文時代の家、前方後円墳、奈良時代の家、奈良時代の米倉、平安時代の製鉄炉、室町時代の館

(イ) 開館日数

県内小中学校の夏季休業期間・ゴールデンウィーク期間については開館し、平成29年度の開館日数を311日とする。

(ウ) 利用者数目標

入館者 29,500人以上

館外利用者 3,000人以上（おでかけまほろん等）

(2) 文化財の収蔵・保管及び活用に関する業務

(ア) 考古資料、考古資料以外の文化財及び文化財に関する資料の収蔵・保管

県教育委員会が発掘調査した出土文化財及び写真や図面等の資料を、収蔵資料台帳に基づいて適正に保管・管理し、資料の貸し出し・閲覧・見学等に迅速に対応する。

(イ) 考古資料、考古資料以外の文化財及び文化財に関する資料の展示

a 常設展示は、「見て、触れて、考え、学ぶ」というプロセスを基本として、展示する収蔵資料を適宜入れ替えながら、わかりやすく展示する。

b 「話題の遺跡」コーナー、「みんなの研究広場」コーナー、「しらかわ歴史名場面」コーナー及びプロムナードギャラリーでは、適宜展示替えを実施する。

① 「話題の遺跡」コーナーでは、震災復興関連の埋蔵文化財調査の事例を紹介するほか、平成30年に戊辰戦争から150年を迎えるに当たり、幕末から明治期の福島県を特徴づける遺跡に着目した展示を行う。

② 「みんなの研究広場」コーナーでは、「まほろん森の塾」の活動とその成果を紹介するほか、避難区域の学校の卒業生による文化財研究の成果を展示する。

③ 「しらかわ歴史名場面」のコーナーでは、地元自治体等と連携して展示資料を選定し、企画展や「話題の遺跡」コーナーとの関連性に配慮しながら展示替えを行う。

- c 企画展示は、「収蔵資料展」、「指定文化財展」、「ふくしま復興展」を開催する。
 - ① まほろん収蔵資料展「縄文土器の年代Ⅱ」後期展示 4月5日(水)～5月7日(日)
 - ② ふくしま復興展1「植物資源と匠の技」(仮称) 6月24日(土)～8月27日(日)
 - ③ 指定文化財展「はにお協奏曲」(仮称) 9月30日(土)～11月26日(日)
 - ④ ふくしま復興展2「被災地の文化財」(仮称) 12月16日(土)～3月4日(日)
- (ウ) 文化財に関する講演会等の開催
館長講演会のほか、文化財講演会、講座、上映会を開催し、文化財に学ぶ機会を広く提供する。特に、文化財講演会は、企画展等と連動させた内容とする。
- (エ) 文化財等を活用した体験学習の実施
常時体験型体験学習、募集型体験学習、館外体験学習等のプログラムにより勾玉作り、火おこし、土器づくり等の古代技術や生活に関する体験学習を展開する。
 - a 常時体験型体験学習では、体験活動室利用者を対象とする「勾玉づくり」、「管玉作り」、「火おこしに挑戦しよう」のほか、月替りの体験メニューを加えて実施する。
 - b 募集型体験学習では、「実技講座」を年14回開催し、初心者向けの基礎的なメニューのほか、材料の採取・加工から完成までの工程をすべて体験する専門的メニューまで、受講者の習熟度に合わせた講座を展開する。さらに、年6回実施する「まほろん森の塾」では、学習成果を展示に生かす試みも実施する。
 - c 館外体験学習の機会は、次の通り設定する。
 - ① 遠隔地校や特別支援学校などに出向く「おでかけまほろん」(年35校程度)
 - ② 公民館等の社会教育施設に出向く「まほろん出前講座」(年5か所程度)
 - ③ 市町村等が主催する催しにおいてまほろん収蔵資料を展示し、文化財等を活用した体験活動を行う「まるごとまほろん」(年5か所程度)
 - d このほか、文化財と白河館への関心を高め、新たな利用者層を開拓するため、様々な体験学習メニューで構成する「まほろんイベント」を実施する。
- (オ) 文化財に関する情報発信
 - a ホームページを利用して収蔵文化財のデータベースを公開し、さらに館業務や県内の文化財等に関する各種情報を発信する。
 - b 県内教育委員会や報道機関等へ館行事の案内を定期的に行い、さらに県内の情報誌等へも積極的に広報活動を行う。
 - c 『まほろん通信』を年4回発行する。
- (カ) 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修
市町村の文化財担当者、生涯学習指導者等を対象に、基礎研修・専門研修・特別研修を実施する。

- (キ) 考古資料の保管及び文化財の保存・活用に関する専門的又は技術的な調査研究
館に収蔵されている弥生時代前後の土器に付着した炭化物を用いて、放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析を実施する。また、原始・古代の自然素材加工技術と、現代に残る民俗技術を研究し、展示や実技講座の内容に反映させる。
これらの調査研究や、事業実施の過程で得られた研究成果を、研究紀要（年1回発行）において公開する。
- (ク) その他の事業
- a ボランティアの運営
ボランティア登録希望者の応募機会を広げ、ボランティアとの情報共有を図りながら、体験学習支援、展示解説、事業広報、体験学習資材整備等を行う。
- b 年報の発行
白河館の事業概要や各種統計をまとめた年報を発行する（年1回）。
- c 博物館実習の実施
学芸員課程の履修生を対象として博物館実習生を公募し、館内での実習を実施する。
- d 他機関との連携
自治体・教育機関・研究機関等と連携して、以下の事業等を実施する。
- ① まほろん移動展「縄文土器の年代Ⅱ」
6月2日（金）～7月5日（水） 場 所：福島県立図書館
- ② 移動水族館
11月18日（土）～19日（日） 場 所：福島県文化財センター白河館
- ③ 共催事業「未来へつなぐ・伝える—ふくしまの歴史と文化」（仮称）
6月17日（土） 主催：ふくしま歴史資料保存ネットワーク 場所：郡山市（予定）

公3 地域文化の振興を図るための助成及び顕彰事業

1 助成・顕彰事業

県内における芸術文化の振興を図るため、自主的な文化活動に対する助成事業及び優れた成果を収めた活発な文化活動に対する顕彰事業を行う。

(1) 助成事業

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、文化団体等の活動を援助・奨励し、本県文化の振興に寄与することを目的として実施する。

8事業を助成対象として、文化団体合わせて80件程度に助成金を交付する。なお、平成29年度より事業の見直しを図り、これまでの3期制から2期制（前期・後期）とする。

(2) 顕彰事業

本県文化の普及、向上、保存及び伝承に貢献した個人又は団体を顕彰する。個人又は団体合わせて5件程度を予定する。

公4 本県復興に資するための文化振興事業

1 被災ミュージアム再興事業

東日本大震災等で被災した双葉郡内自治体の資料館等の収蔵資料について、白河館において適切な保全措置を行い、被災自治体の文化復興に資する。

Ⅲ 収益事業

収1 公益目的事業以外の施設貸与に関する事業

1 福島県文化会館の施設貸与

公益目的事業の推進のために、公益目的事業以外についても福島県文化会館の施設・設備を貸与し、施設の有効活用を図る。これによる利用料金収入は14,000,000円を目標とする。

収2 物品の販売等に関する事業

1 物品の販売等に関する事業

福島県文化センター及び福島県文化財センター白河館の来館者サービスの一環として、また、公益事業の推進のために、物品の販売等を行う。

(1) 福島県文化会館関連事業

来館者の利便に供するため、文化事業のチケット販売、自動販売機による飲料販売、主催事業の際に軽食・弁当販売等を行う。

(2) 福島県文化財センター白河館関連事業

展示品をモチーフにしたオリジナル商品や体験学習資材等を利用者に販売するとともに、新メニューの開発を行う。また、来館者の利便に供するため、自動販売機による飲料販売、イベント実施の際に軽食販売等を行う。

公1-1 芸術文化振興事業 事業一覧

	事業名	期日・開催場所(予定)	内 容	
(1) ふくしま文化復興事業	(ア) キッズシアター	開催日/6月上旬～下旬12日間、16公演 会場/県内6市3町(福島市・郡山市・須賀川市・白河市・会津若松市・国見町・川俣町・矢吹町・南会津町) 対象/小学生	子どもの感情や情緒を育み、創造的で、個性的な心の働きを豊かにし、道徳的な意識や価値観を養うことを目的として、教育開催地教育委員会等との共催により、児童・生徒を対象に県内巡回演劇公演を実施する。 演目/オペラ「森は生きている」 出演・制作/オペラシアターこんにやく座	
	(イ) 子どもの芸術文化体験事業	開催日/7月中旬～平成30年2月中旬 対象/幼児・児童・生徒	福島県の復興を担う子どもたちの健全な育成を目的として、数多くのジャンルのアーティストを県内の幼稚園や小・中学校等に派遣し、優れた芸術文化に生で触れる機会を提供する。	
	(ウ) 歴史再発見事業	開催日/8月上旬 会場/県内市町村 対象/児童及び保護者	東日本大震災からの文化復興の担い手となる人材の育成を目的とし、夏休み期間中に、親子(小学生とその保護者)で史跡や文化財等を見学するバスツアー等を行ない、被災地の歴史や文化を見つめ直す機会を提供する。	
	(エ) 復興共催事業	a coba tour 2017 25周年記念 b フォレスト・コンサート c めざましクラシックス	開催日/8月27日(日)会場/小ホール 開催日/11月15日(水)会場/大ホール 開催日/2月24日(土)会場/大ホール	主催/株式会社ニュースプロモーション 主催/株式会社ノースロード・ミュージック 主催/福島テレビ株式会社
(2) 舞台芸術等鑑賞事業	(ア) 古典劇場	a 「狂言公演」	開催日/11月2日(木) 会場/大ホール 対象/一般	日本古来の伝統芸能の継承・普及を目的として、古来より民衆の生活に生き、育まれてきた日本伝統芸能の中でも人気の高い狂言公演を実施する。なお、実施にあたってはボランティアの参加を得て運営する。 演目/未定 出演/野村万作、野村萬斎、他
		狂言セミナー	開催日/10月中～下旬 会場/小ホール 対象/一般	「狂言公演」に先がけ、狂言の基礎知識や上演演目の見どころなどをわかりやすく解説する。 講師/未定
	(イ) 映画鑑賞事業	a 子ども映画会	開催日/7月下旬～8月中旬 会場/小ホール 対象/幼・児童	子どもの健全な育成を目的として、学校の夏休みの期間に合わせて子ども向けのアニメーション作品等の映画を上映する。なお、実施にあたってはボランティアの参加を得て運営する。
		b 名作シネマ	開催日/平成30年1月下旬～2月 会場/小ホール 対象/一般	優れた映画の鑑賞機会を提供し、映画鑑賞人口の増加と、映像文化の振興を図ることを目的として実施する。文化庁の優秀映画鑑賞推進事業等を利用し、歴史に残る名画等を上映する。なお、実施にあたってはボランティアの参加を得て運営する。
	(ウ) 文化センター感謝祭	a 感謝祭コンサート	開催日/10月9日(月・祝) 会場/大ホール 対象/一般	文化センターの改修工事に伴う長期休館により、ご不便をお掛けした事に対するお詫びと日頃の感謝の意を込めて、福島にゆかりのあるアーティスト等による大人から子どもまで楽しめる3公演及び式典を開催する。 出演/遠藤千晶 他6名(箏曲演奏)・藤原道山(尺八)・佐藤通弘・道芳(津軽三味線)
		b 感謝祭子どもまつり	開催日/10月14日(土) 会場/2階会議室 対象/幼児・児童～一般	子どもを対象としたパントマイム等の2公演を実施する。 出演/芹澤智香(パントマイム)・川上童生(紙芝居)
c 感謝祭イベント		開催日/6月10日(土) 会場/小ホール 対象/一般	感謝祭イベントとして、福島市にサテライト校を置き、第63回全国高等学校演劇大会出場(29年8月開催)をはたした相馬農業高校飯館校演劇部の壮行会公演を開催する。 演目/「サテライト仮想劇-いつか、その日に、-」 出演・制作/相馬農業高校飯館校	
(3) 共催事業	(ア) 第71回福島県総合美術展覧会	開催日/6月16日(金)～25日(日) 会場/2・3階展示室	主催/福島県他	
	(イ) ファミリーシアター	開催日/10月 対象/児童～一般 会場/県内町村	主催/(公社)日本児童青少年演劇協会、開催地教育委員会 演目/未定 出演/未定	
(4) 後援事業	(ア) 後援事業 未定	未定	本県文化の振興に資する事業について、関係機関・文化団体・報道機関等からの申請により後援する。	

公1-2-(4) 福島県歴史資料館関係事業 事業一覧

(1) 収蔵資料テーマ展

タイトル	内 容	時 期	場 所
「檜枝岐村文書の世界」(仮)	檜枝岐村立村100周年を記念し、同村から寄託を受けている檜枝岐村文書のなかから村絵図・小羽板・白峯銀山・養蚕書などの史料を展示し、江戸時代から明治期までの檜枝岐村の歴史を振り返る。	4月22日(土) ～7月30日(日) (予定)	展示室
「只見地方の歴史と文化」(仮)	只見線の早期復旧を支援するため、只見地方の古文書のなかから、村絵図・銀山・口留番所・検地帳・往来・地誌・戊辰戦争などに関する史料を展示し、山村の生活の実態を見ていく。	9月9日(土) ～12月24日(日) (予定)	展示室
「新公開史料展」	平成28年度に整理を行った『福島県歴史資料館収蔵資料目録』第48集で公開した史料のなかから、代表的な史料を展示する。	1月20日(土) ～3月18日(日) (予定)	展示室

(2) 講座・講習会等

タイトル	内 容	時 期	場 所
古文書講座	歴史資料の利用促進を図るため、希望者を対象に、古文書解読のための基礎を習得できる講座を江戸時代の文書を題材に4回実施する。	8月19日(土) 9月2日(土) 9月16日(土) 9月30日(土)	文化センター2階会議室
地域史研究講習会	地域史料の保存と活用の方法や、地域史研究の視点について理解を深められる講習会を開催する。	11月11日(土)	文化センター2階会議室
フィルム上映会	日本の伝統・技術・歴史・風土などに関係する映像を上映する。	6月17日(土) 8月19日(土) 10月14日(土)	文化センター視聴覚室

(3) 他館との連携事業

タイトル	内 容	時 期	場 所
「檜枝岐村文書の世界」(仮)	檜枝岐村立村100周年を記念して福島県歴史資料館で実施した展示を福島県立博物館で展示し、会津地方の人をはじめとして広く鑑賞する機会を提供する。	9月中旬～12月上旬(予定)	福島県立博物館展示室
「檜枝岐村文書の世界—山村集落の歴史—」(仮)	檜枝岐村立村100周年を記念して福島県歴史資料館で実施した展示の中心的な資料を展示し、その関連講座に職員を派遣する。	1月5日(金) ～2月12日 (月・祝)	福島県立図書館展示コーナー

公2-1 埋蔵文化財関係事業 事業一覧

(1) 埋蔵文化財調査

① 遺跡分布調査事業

No.	事業名	市町村	調査面積 (㎡)	調査予定 期間
1	一般国道115号相馬福島道路	伊達市ほか	165,000	4月～ 12月
2	阿武隈川右岸築堤	郡山市		
3	小名浜道路	いわき市		
4	会津縦貫南道路	下郷町		
5	国道349号改良工事	矢祭町		

② 遺跡発掘調査事業

No.	事業名	市町村	遺跡名	事業内容	調査面積 (㎡)	調査予 定期間
1	一般国道115号相馬福島道路	伊達市	かみのだいたてあと 上ノ台館跡	相馬福島道路建設予定地 内の発掘調査	14,500	4月～ 12月
		桑折町	ひでりだ 日照田ほか			
2	阿武隈川上流河川改修	須賀川市	たかぎ 高木	阿武隈川上流河川改修事 業浜尾遊水地建設予定地 内の発掘調査	6,600	
3	常磐自動車道路	楡葉町	おおやうえのはら 大谷上ノ原	常磐自動車道路ならばス マートインター建設予定 地内の発掘調査	9,300	
4	県道広野小高線	富岡町	けがやたてあと 毛萱館跡	県道建設予定地内の発掘 調査	5,000	
発掘調査面積		合計			35,400	

③ 発掘調査報告書の刊行

No.	事業名	報告書名	収録遺跡名
1	遺跡分布調査	福島県内遺跡分布調査報告24	試掘・確認調査17遺跡 分布調査1ヶ所
2	一般国道115号相馬福島道路	一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告6・7	ぬまがいら かみのだいたてあと 沼ヶ入・上ノ台館跡 かわはらだ ぼ ぼ しんじゆく 川原田・馬場・新宿
3	会津縦貫南道路	会津縦貫南道路遺跡発掘調査報告2	たきのいり 瀧ノ入
4	復興基盤総合整備 (金沢地区)	農山漁村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡 調査報告3	やちなか 谷地中
5	復興基盤総合整備 (右田海老地区)	農山漁村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡 調査報告4	おけしや 桶師屋
6	県道浪江鹿島線整備	県道浪江鹿島線関連遺跡発掘調査報告1	うえまつ 植松C

④ 県内市町村埋蔵文化財調査への技術協力

昭和村・三島町・矢吹町ほかで実施される予定の試掘・確認調査、発掘調査への技術協力

公2-2 平成29年度 福島県文化財センター白河館関係事業 事業一覧

(1) コーナー展

名称(仮称)	内容	期間(予定)
話題の遺跡 「戊辰戦争と考古学」	平成30年に戊辰戦争から150年を迎えるに当たり、幕末期から明治期初頭の遺跡に着目した展示を実施する。また、関連講演会も実施する。	12月～3月
みんなの研究広場 「双葉高校の文化財調査」	平成29年度から休校する県立双葉高校の卒業生が収集・記録を行った文化財調査の成果を特集して展示する。	8月～11月

(2) 企画展

名称(仮称)	内容	期間(予定)
まほろん収蔵資料展 「縄文土器の年代Ⅱ」後期展示	白河館に収蔵されている縄文中期の土器を展示し、放射性炭素年代測定結果及び炭素・窒素安定同位体比分析結果を公開する。	4月5日(水)～5月7日(日)
ふくしま復興展1 「植物資源と匠の技」	縄文時代以来、植物資源を活用して生活用具を生み出してきた技術に焦点を当て、ふくしまの自然と伝統文化の意義を発信する。	6月24日(土)～8月27日(日)
指定文化財展「はにわ協奏曲」	重要文化財に指定されている県内の埴輪を紹介する。子供たちによるはにわ解説会も実施し、幅広い年齢層が文化財に親しめる機会とする。	9月30日(土)～11月26日(日)
ふくしま復興展2 「被災地の文化財」	原子力災害による避難区域から救出された文化財を展示する。また、郷土の文化財を守るために続けられてきた地元の活動も紹介し、福島県の復興・創生に向けた文化財保護の重要性を伝える内容とする。	12月16日(土)～3月4日(日)

(3) 館長講演会

名称	内容	開催日(予定)
館長講演会	進展する考古学	5月20日(土)、7月15日(土)、9月30日(土)、 12月16日(土)、2月3日(土)

(4) 文化財講演会

種別	内容(予定)	開催日(予定)
文化財講演会 1	縄文時代中期の世界について	4月23日(日)
文化財講演会 2	新発見ふくしま発掘事情	6月24日(土)
文化財講演会 3	縄文時代の植物資源利用 編み組技術の変遷と地域性	7月16日(日)
文化財講座	縄文土器の年代と地域性	8月26日(土)
文化財講演会 4	音の考古学	10月8日(日)
文化財講演会 5	幕末・近代の陣地遺構とその特質 戊辰戦争期の陣地跡と史料	12月17日(日)
文化財講演会 6	被災地と文化財	1月28日(日)

(5) 体験学習

名称(仮称)	内容(予定)	開催日(予定)	
実技講座	家族で土器づくり	土器づくり初心者を対象とした講座。収蔵品を見本としながら、先人の技を家族で体感する。	6月11日(日)
	カラムシから布をつくろう	カラムシを刈り取り、表皮を剥いで繊維を取り出す実習	7月9日(日)
		繊維を柔らかくしながら糸を紡ぐ実習	7月23日(日)
		紡いだ糸を編んで布を完成させる実習	8月27日(日)
鏡づくり	金属を鋳込み、磨いて三角縁神獣鏡を製作する体験	10月15日(日)	

名称(仮称)		内容(予定)	開催日(予定)
実技講座	竹かごづくり	竹を切り、かごの素材を整形する作業の体験	11月12日(日)
		整形した素材を編み、かごの底部をつくる作業の体験	12月3日(日)
		かごの体部を立ち上げ、縁巻きを行う作業の体験	12月17日(日)
		全体の補修を行い、かごを完成させる体験	12月24日(日)
	縄文土器づくり(上級編)	粘土紐積み上げによる成形と施文原体づくり	1月20日(土)
		文様の施文と器面調整	1月21日(日)
		野焼き	2月25日(日)
昔のはきものづくり	藁を素材として縄をない、中・近世のはきものをつくる	2月3日(土)～4日(日)	
森の塾	さまざまな体験活動を、年間を通じて実施する。対象は小中学生。	6月25日(日)から(年間6回)	
イベント	ゴールデンウィークまほろんまつり	文化財に関する様々な体験を楽しめる三日間	5月4日(木・祝)～6日(土)
	野外展示と植物の見学会	敷地内の植物に親しみ、原始・古代の暮らしと自然の関わりを学ぶ見学会	6月4日(日)
	まほろん夏まつり	文化財に関する様々な体験を楽しめる一日	7月30日(日)
	野外展示と植物の見学会	敷地内に自生する花に親しみ、古代の暮らしと植物の関わりを学ぶ見学会	10月1日(日)
	ありがとう50万人まほろん大感謝祭	まほろん来館者50万人達成に感謝して実施する催し。この日だけの体験を楽しめる二日間	11月18日(土)～19日(日)
	まほろん冬まつり	文化財に関する冬ならではの体験を楽しめる一日	2月18日(日)

(6) 文化財研修

種別		内容(予定)	開催日(予定)
基礎研修	考古資料基礎研修	縄文土器の観察と資料化の視点	4月29日(土・祝)
	文化財保護活用基礎研修	文化財の梱包・展示・安定化の基礎知識	5月13日(土)
	上映会・無形文化財研修	伝統技術を伝えるために	7月1日(土)
	教職員等発掘調査体験研修	発掘調査の実習	8月2日(水)～4日(金)
	地方史研修	白河市天王山遺跡の謎と研究史	2月24日(土)
専門研修	文化財保護活用専門研修	木製品・金属製品の取り上げと保存	9月9日(土)
	文化財と関連科学研修	文化財非破壊分析の手法	
	文化財保護指導者研修会	まるごと博物館事業について ほか (会津若松市で開催)	10月24日(火)～25日(水)
	考古学専門研修	はにわの世界	10月28日(土)

(7) 他機関との連携

名称(仮称)	内容(予定)	期間・場所(予定)
まほろん移動展「縄文土器の年代Ⅱ」	収蔵資料展「縄文土器の年代Ⅱ」で展示した資料を、福島県立図書館において展示する移動展。	6月2日(金)～7月5日(水) 福島県立図書館
移動水族館	ふくしま海洋科学館との連携により、まほろん大感謝祭において移動水族館を開催する。	11月18日(土)～19日(日) 福島県文化財センター白河館
「未来へつなぐ・伝えるーふくしまの歴史と文化ー」	ふくしま歴史資料保存ネットワーク事務局が実施するシンポジウムの共催。被災文化財保護の現状と課題を検討する。	6月17日(土) 郡山市(予定)

公3-1-(1)助成顕彰事業 助成対象事業一覧

助成対象事業	内 容
①成果発表事業	自ら行う常日頃の文化活動の成果を広く県民に公開する場合に助成の対象となる。美術展、音楽会、演劇・舞踊公演、自作映画会、文芸誌・郷土史誌の出版、民俗芸能の発表会、広域的に行われる生活文化展（華道・茶道等）、短歌大会等々。
②発表会等への参加に要する事業	県内外での発表会等へ、県代表以上の資格またはそれに準ずる資格で出場または出品する場合。また、国内の公的機関から招へいされ出場または出品する場合で、財団で認めるもの。
③文化団体への事業費	文化活動に関し連絡調整することを目的とする全県規模の文化団体の事業に要する経費。
④特認事業	講演会等の文化事業で、その内容が全県的に大きな影響を与え、県民文化の振興に著しく寄与すると認められるもの。
⑤文化財の保護事業	登録文化財及び市町村指定文化財のうち、国及び自治体以外が所有する文化財の保護・保存のための事業、または、当該市町村の推薦のあるもので、特に財団が必要と認める文化財の保護・保存のための事業。また、経済産業省が認定した近代化産業遺産（国及び自治体所有を除く）の保護・保存のための事業。
⑥文化振興による地域づくり事業	文化振興による地域活性化に関するソフト事業及び文化資源を生かした地域づくりに関するソフト事業で、地域の文化振興への影響が大きいもの。
⑦伝統文化の保存・継承・発展事業	伝統文化の保存・継承・発展を目的としたソフト事業であり、伝統文化の保存・継承・発展への影響が大きいもの。 ⑤「文化財の保護事業」の対象となる事業を除く。
⑧被災者文化活動支援事業	(1) 東日本大震災又は原子力災害で被災した県民及び文化団体が参加する芸術文化及び伝統芸能に関する事業。 (2) 東日本大震災又は原子力災害で被災した県民及び文化団体が伝統文化の保存・継承のために行うソフト事業。ただし、「国及び県指定文化財」は除く。 (3) 東日本大震災又は原子力災害で被災した県民及び文化団体が所有する伝統芸能の用具等の新調・修理事業。ただし、「国及び県指定文化財」は除く。